那賀川水系大規模氾濫減災協議会
令和2年2月　取組状況

■ 取組

１．円滑かつ迅速な避難行動のための取組

（１）平時から住民等へ避難行動のための周知・教育・訓練に関する事項

⑫防災教育の促進　　**【四国地整】**

減災対策協議会に係る取組方針では、令和2年度から開始される新学習要領に基づく防災教育が小学校の授業として導入されることから、平成30年度より那賀川流域の小学校からモデル校を選定し、防災教育に関する指導計画（案）を作成・実施しています。

今年度は、岩脇小学校の4年生に協力をいただき、防災教育に関する指導計画（案）を参考として防災教育の授業を実施しました。

授業に用いた資料は分かりやすかったとの感想も頂いた一方で、資料のボリュームが多く、十分活用できなかった点や、4年生には難しい内容があったとのご意見も頂きました。

今回頂いた結果をもとに見直し等を行った上で、モデル校以外の学校へも速やかに展開できるよう、支援を継続していきます。

発問及び板書計画（1／4　自然災害のおこりやすい国土）

☆太数の文字については、小学４年生にて学習する漢字を示す。

配分時間	教師の発問(子どもの反応)	教材	指導上の留意点
導入 (10分)	T:この写真を見てください。これは何のさい害か分かりますか? 黒板はり付け：こう水時の写真 (C:こう水だと思います) T:そう、こう水の写真です。これは、平成 26 年 8 月にみなさんが住んでいる阿南市の加茂町でさっさいされた写真です。 みなさん、この時のことを覚えていますかこのときは、台風 11 号が徳島県に上陸し、大雨がふったことで、このような水害が起こりました。 日本には、こう水以外にどのような自然さい害があるでしょうか?今日はこういった自然さい害について学習していきたいと思います。 めあて：日本ではどんな自然さい害が起こっているのか調べよう。	こう水時の写真	・さい害のじょうきょうや害の様子などに関する写真を使って、さい害のおそろしさを気付かせる。
展開 (30分)	T:では、こう水以外にどのような自然さい害があるか予想してみましょう。 T:予想したことを発表してください。 (C:地しん、台風、土しゃくずれ、つ波、たつまきだと思います) 黒板はり付け：自然さい害の写真（回答にあわせて、写真をはる。（地しん、ふん火、つ波、土しゃくずれなど） T:このように、日本ではさまざまなさい害が起こっています。日本では、なぜこのようなさい害が起こるのでしょうか?考えて理由を発表してください。 (C:つ波が起こるのは、地しんが起こったからだと思います) (C:地しんが起こるのは、日本にしんげん地がたくさんあるからだと思います) (C:つ波によるさい害が起こるのは、海に囲まれているからだと思います) (C:日本は雨の量が多いので、こう水やよしゃくずれが起こりやすいのだと思います) (C:日本は台風がたくさん通るので、こう水やよしゃくずれが起こりやすいのだと思います) (C:長崎は大雨がふっているので、こう水が起こりやすいのだと思います) T:では、これらの理由をグループ分けしてみましょう。どのようにグループ分けできるでしょうか?「地形」と「気候」、この２つのグループに分けてみてください。 T:地しんが起こるのはどちらのグループにあてはまると思いますか? (C:地形のグループだと思います) T:では、つゆに雨が多いのはどうでしょうか? (C:気候のグループだと思います) T:（全てのグループ分けを行ったあと）ここでしっ問です。こう水や土しゃくずれは、大雨によって起こりますが、どんなところで起こりますか? (C:土しゃくずれは山だと思います) (C:こう水は川の近くの平野だと思います) T:そうです。こう水や土しゃくずれなどは、気候が原いんで起こりますが、起こる場所は地形が原いんとなりますね。このように、こう水や土しゃくずれなどは、地形と気候のじょうけんが重なって起こるさい害だといえます。これからプリントを配ります。 プリント配ふ：那賀川水けい流いき図等	自然さい害の写真 （地しん、ふん火、つ波、土しゃくずれ） 那賀川水けい流いき図等(1)	・さい害における気候と地形の関係を理ふかいさせる。

発問及び板書計画（案）

授業風景

グループワークの様子

パソコンによる映像講義